

三好市森づくり基本計画

「千年のかくれんぼ」の森構想

2020—2029 Ver.1

概要版



三好市

①基本計画の概要

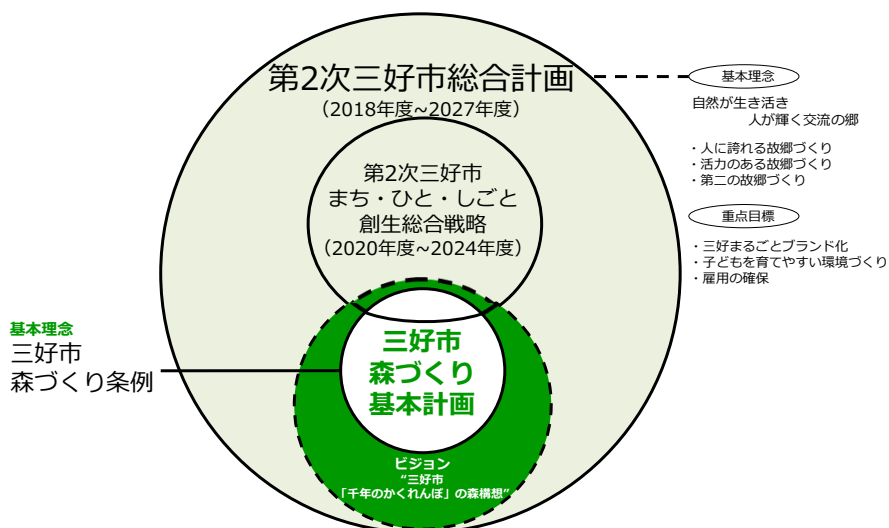
(1) 策定の目的

三好市の森林は、私たちの暮らしにとってかけがえのない基盤であり、市民共有の財産です。また、森林の有する多面的機能としては、木材生産機能の他にも土壌保全機能、水源涵養機能、保健・文化機能など多くの役割を果たしており、近年は森林の重要性における認識が一般的に広がりつつあります。

私たちは、これら森林の恵みや森の働きを再認識するとともに、森林の有する多面的機能の持続的な発揮を重視した新たな森づくりの展開を図るため、森林・林業に関わる人々の役割を明確にしながら、森づくりに関する施策やその取り組みを総合的かつ計画的に実施するため「三好市森づくり基本計画」（以下「基本計画」という）を策定します。

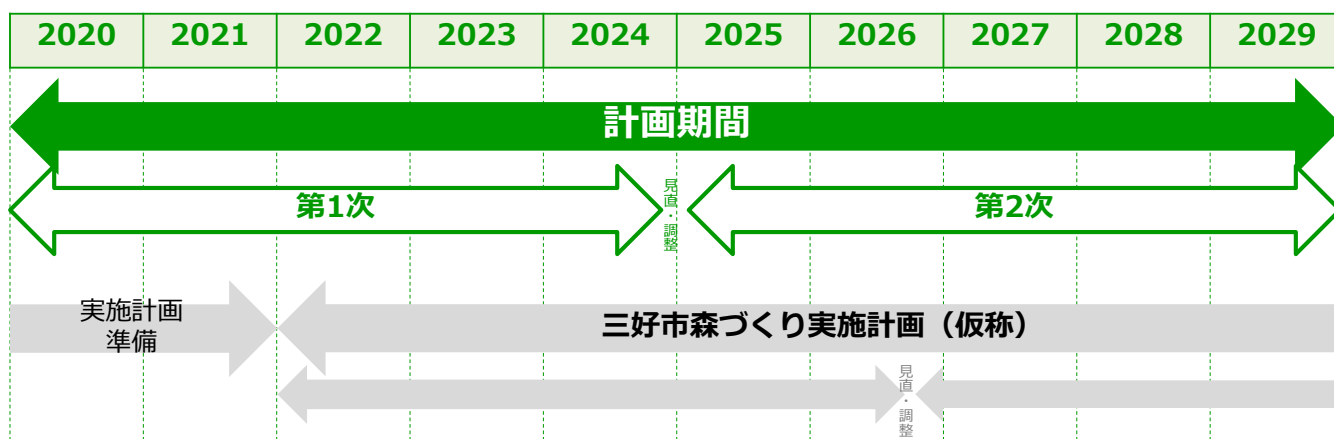
(2) 位置づけ

基本計画では、本市全体の総合計画である「第2次三好市総合計画」と2019年6月に制定した森づくりの基本理念となる「三好市森づくり条例」を合わせ、森林の文化的、経済的、社会的価値を見据えた計画を目指します。また、本市の目指す森林を示すビジョンとして“三好市「千年のかくれんぼ」の森構想”を合わせて定めます。（ビジョンの詳細は、全文25ページ目以降の第2編第1章を参照）



(3) 計画期間

2020年度（2020年4月1日）から2029年度（2030年3月31日）までの10か年計画とします。10か年のうち、前半5年を第1次、後半5年を第2次計画期間として定め、見直しや更新をしていきます。また、段階的に詳細設計を行い、詳細内容は2021年度以降に策定予定の「三好市森づくり実施計画（仮称）」にて明記するものとし、本計画では前段階の基本的な計画内容を定めることとします。



②三好市の森林の課題

(1) 手入れ不足の森林

三好市は市面積の約90%を占める64,665haが森林で、そのうち人の手により植林し、育てられた人工林が約63%と半数以上を占めています。

森林は、手入れが行き届くことで、山にしっかりとした木の根を張りめぐらせ、雨水を浄化したり大雨や台風が来ても木が倒れることなく土砂災害を防ぐなどの効果があります。しかしながら、現在全国的にも、また三好市においても放置された人工林が多く、自然災害が発生しやすい森林が増えています。そのため、森林を整備する担い手育成や、機械が通れる林道の整備などが重要となります。



手入れされた森林は、私達の生活を守ります。

(2) 利用不足の森林

三好市の2018年の素材生産量は150,653m³で、徳島県内で最も多く木材(原木)を生産しており、徳島県内の素材生産量の4割以上を占めます。しかしながらその多くは、市外で利用されているのが現状です。免疫効果や癒し効果のある成分を発する木材、その中でも市産材を市内で積極的に活用することで、市民の健康や経済循環に役立つことができます。



木材は健康で豊かな暮らしを支えます。

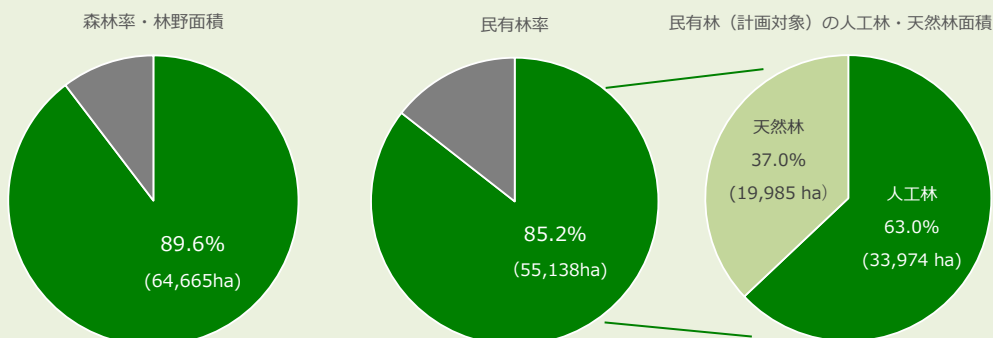
(3) 認知不足の森林

三好市は、国や県指定の自然公園を複数有し、美しい急流で有名な大歩危・小歩危溪谷をはじめ、祖谷溪谷、剣山、三嶺などの観光拠点が豊富にあります。また、近年では、この豊富な自然環境を活かしたアウトドアスポーツも盛んです。しかし、森林を身近に感じる市民は少なく、まだまだ知られていない森林の魅力、奥深さを秘めています。皆さんの暮らしと森林の関係性を再構築し、共に三好市の森づくりをしていくことがこれからの大切なテーマです。



三好市には、全国に誇れる森林があります。

私たちの身近な森林



③三好市の目指す森林ビジョン

三好市の目指す森林ビジョンを“三好市「千年のかくれんぼ」の森構想”として掲げ、以下の3つの重点理念（コンセプト）を設定します。

こだま
木霊の宿る森づくり

こだま
木霊の響く街づくり

こだま
木霊の紡ぐ人づくり

「千年のかくれんぼ」に込めた想い

「千年のかくれんぼ」は、「にし阿波～剣山・吉野川観光圏～」にて発信しているコンセプトです。「にし阿波」とは、三好市、美馬市、つるぎ町、東みよし町をエリアとした観光庁が定める全国の13観光圏域の一つであり、日本の顔となる世界品質の観光プログラムの創造などに取り組んでいます。このコンセプトの背景は、千年以上にわたっての私たちの営みや暮らし、自然との共存によってつくられた風景や文化に誇りを持ち、想いを馳せることにあります。

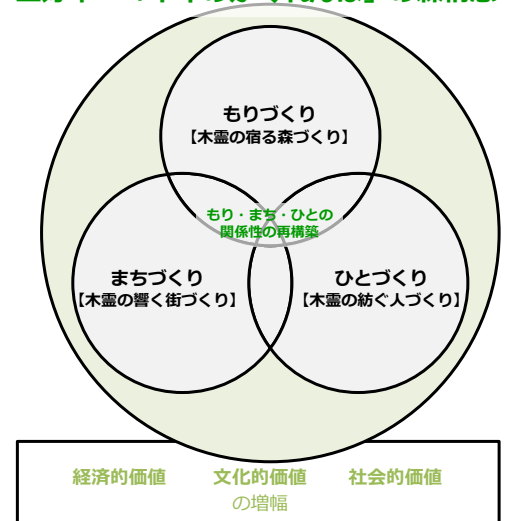
まさに、このコンセプトは森づくりの理念にも通じるものであることから、このたび「千年のかくれんぼ」に想いを込め、森づくり基本計画のビジョンの根底に置くこととしました。

「もり・まち・ひとの関係性の再構築」と「木霊（こだま）」に込めた想い

木霊とは、木々に生きる「精霊」のことであり、また、山や谷に響く「やまびこ」のことを意味しますが、本計画では、木霊は「私たち自身でもある」という意味も加えたいと考えています。その背景には、戦後の高度経済成長時代に経済優先で進められてきた森づくり（拡大造林）に代わり、これからは環境に配慮し、経済的・文化的・社会的な価値を最適なバランスで保つ森づくりが求められていることが挙げられます。

これからは、森にいきる木霊も、木霊と共存し調和しあう私たち自身も、「もり・まち・ひと」の関係性を再構築する触媒であって欲しいと考えています。

三好市 「千年のかくれんぼ」の森構想



④森づくり人口の目標

本計画では、森林・林業に関わる人をトータルで捉え、人数ではなく関わり合う人のシェア（比率）を重要視した「森づくり人口」を指標とします。具体的には、三好市人口ビジョンにおいて見込まれている2040年（令和22年）の人口13,745人（生産年齢人口は5,713人）のうち、「森づくり人口」は26%を目指します。このうち、産業人口については、林業4%、製材・木材加工業（家具除く）2%、家具・小売業1%の合計7%を目指します。なお、“三好市「千年のかくれんぼ」の森構想”の目指すところは、市民のみならず関係人口も含めたすべての人たちが、本計画で示すビジョンを認知・共感し、暮らし、産業、ローカルビジネス、観光、教育等あらゆる分野で、自分事として活動していくことを理想とします。

⑤基本施策と実行(検討)項目

[もり]木霊の宿る森づくり

森林の潜在価値を希求し、林業の経済基盤を強化しながら、森林の持続可能な資源基盤づくりをすることで、木霊が多く宿るような、「もりづくり」を目指します。

1. 森林の資源データ整備

- ・航空測量データ整理
- ・所有者の意向調査
- ・経済林の明確化
(森林経営管理制度、地籍調査)
- ・観光拠点としての森林整備

2. 長期軸の資源基盤づくり

- ・森林ゾーニングの検討
(地質、文化、生態、景観、防災)
- ・目標林型の設計
- ・集約化施業と三好市森林整備計画の再検討
- ・森林経営管理制度(市町村管理)の方向性確定

3. 短期軸の経済基盤づくり

- ・スマート林業の推進
- ・林業機械の導入の推進
- ・林道の整備と拡張
- ・市内事業者の規模と市産材の市内流通量の把握

[まち]木霊の響く街づくり

情報発信と連携整備、都市の木質化、異業種連携をすることで、市街地と山が繋がり木霊が響き渡る「まちづくり」を目指します。

4. 情報発信と拠点&連携整備

- ・戦略的広報/PR体制の構築
- ・情報発信の窓口設置
- ・官民協定の充実化
- ・他自治体(都市部)と連携強化
- ・三好市産材利用PR(都市圏販路開拓)

5. 異業種(観光業等)連携とローカル&ベンチャービジネスの創出

- ・起業支援
- ・観光事業との相乗効果の創出
- ・特用林産物の販売拡大
- ・農業、環境関連ビジネスとの連携
- ・薬草薬樹の育成

6. 市産材の利用促進

- ・市内施設の木質化
- ・個人住宅の市産材利用補助制度の充実
- ・流通-加工デザイン(地域流通・商社機能)
- ・市産材加工品の開発
- ・JAS規格と森林認証の検討
- ・木質バイオマスエネルギー利用拡大

[ひと]木霊の紡ぐ人づくり

林業人口の創出、市民参加の拡充、関係人口の拡大をし、林業をライフスタイルにまで広げ、過去から未来への時を感じ、先人の想い(木霊)を紡いでいける「ひとづくり」を目指します。

7. 林業人口(産業人口)の創出

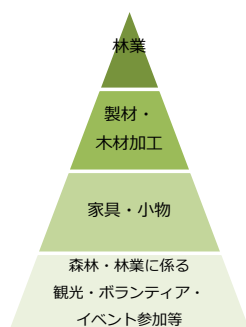
- ・県立高校への森林学習導入
- ・三好市版林業アカデミーの実施
- ・県内シェアNo1を継続する経営力向上
- ・IT人材、他企業の参入斡旋

8. 市民参画の拡充

- ・三好の森ファンクラブの実現
- ・子ども森林会議の開催
- ・森林ボランティア人材の育成
- ・市民の健康/福祉の増進

9. 関係(交流)人口の拡大

- ・移住定住促進事業との連携
- ・木育イベントの開催と交流
- ・企業及び団体との連携



	業種	2019年		2040年
		人数	割合	割合
産業人口(林業関連)	林業	142人	生産年齢人口の1.2%	生産年齢人口の4% ※副業、アルバイト、ボランティア含む
	製材・木材加工業(家具除く)	117人	生産年齢人口の1.0%	生産年齢人口の2% ※副業、アルバイト、ボランティア含む
	家具・小売業	20人	生産年齢人口の0.2%	生産年齢人口の1% ※副業、アルバイト、ボランティア含む
森づくり人口		-	-	全人口の26%
		2019年時点で統計無し		

※目標数値(%)は市場の競争環境下において使用される「ランチェスター戦略」の値を参考にしています。基本計画では競争を共創と捉えて、共に創り出す仲間を増やすことを前提としています。

⑥三好市森づくり基本計画 全容図

※図表等の詳細内容は全文の該当ページをご覧ください。

世界と日本の動き

世界：SDGs、パリ協定
日本：地方創生、森林環境譲与税、森林経営管理制度

基本理念

三好市森づくり条例



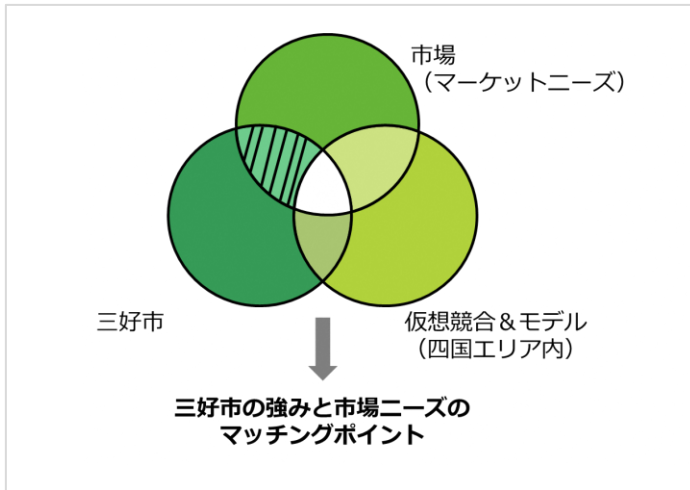
“三好市「千年のかくれ森」 ～もり・まち・ひとの もりづく

【木霊の宿る森】

【木霊の響く街づくり】

経済的価値 文化的価値
の増幅

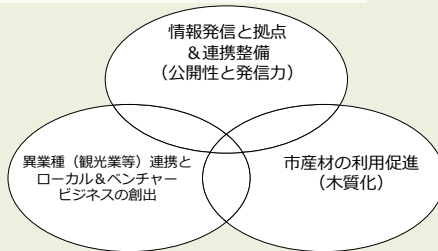
森林の多面的 (森林価値の持続)



3C分析 (森林、まち・観光、人材)

重点理念
(コンセプト)

木霊の響く街づくり【まち】



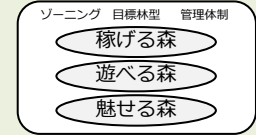
重点目標
(テーマ)

木霊の宿る森づくり

100年後の三好市の森
(広く人の手が及ぶ森)

ポテンシャル
森林の潜在力

長期軸の資源基盤づくり



実行項目
(検討項目)

基本施策

1. 情報発信と拠点・連携整備

- ・戦略的広報/PR体制の構築
- ・情報発信の窓口設置
- ・官民協定の充実化
- ・他自治体(都市部)と連携強化
- ・三好市産材利用PR(都市圏販路開拓)

2. 異業種(観光業等)連携とローカル&ベンチャービジネスの創出

- ・起業支援
- ・観光事業との相乗効果の創出
- ・特産林産物の販売拡大
- ・農業、環境関連ビジネスとの連携
- ・薬草薬樹の育成

3. 市産材の利用促進

- ・市内施設の木質化
- ・個人住宅の市産材利用補助制度の充実
- ・流通-加工デザイン(地域流通・商社機能)
- ・市産材加工品の開発
- ・JAS規格と森林認証の検討
- ・木質バイオマスエネルギー利用拡大

4. 森林の資源データ整備

- ・航空測量データ整理
- ・所有者の意向調査
- ・経済林の明確化(森林経営管理制度、地籍調査)
- ・観光拠点としての森林整備

5. 長期軸

- ・森林ゾーニング(地質、文化)
- ・目標林型の集約化施策再検討
- ・森林経営方向性確定

参考目標数値

業種	2019年		2040年	
	人数	割合	人数	割合
林業	142人	生産年齢人口の1.2%	4%	生産年齢人口の4%
製材・木材加工業(家具除く)	117人	生産年齢人口の1.0%	2%	生産年齢人口の2%
家具・小売業	20人	生産年齢人口の0.2%	1%	生産年齢人口の1%
森づくり人口	2019年時点で統計無し		全人口の26%	



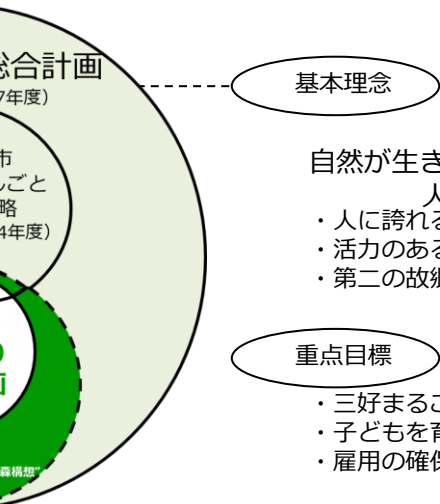
更新と

三好市森づくり基本計画

発行 (Ver.1.0)

三好市森づくり委員会

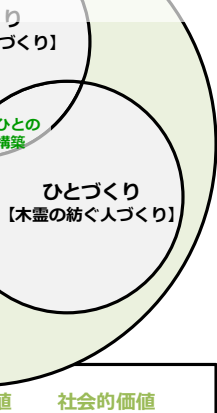




三好市の現況

- ・人口減少、少子高齢化等の課題
- ・サテライトオフィス誘致や観光資源の強みと実績
- ・県内トップの生産量を誇る林業のまち
- ・森づくり条例の整備など最近の動き
- ・森林率89% (人工林63%、天然林37%)
- ・2019年度素材生産量は約15万m³ (徳島県内シェアNo.1)
- ・林業従事者数は生産年齢人口の約1%

「丸ごと」の森構想” 関係性の再構築～



		内部環境		
		Strength (強み)	Weakness (弱み)	
外部環境	Opportunity (機会)	「強み」によって「機会」を最大限活かす成長戦略	「弱み」を克服し「機会」を最大限活かす改善戦略	
	短期軸の経済基盤づくり	森林×異業種の創出	木質化、街に森を(地域材の利用拡大)	情報発信と拠点&連携整備
	Threat (脅威)	「強み」を活かし「脅威」の中で生きていく差別化戦略	「脅威」に対し「弱み」で溺れてしまわないための体幹強化戦略	
	林業人口(産業人口/担い手)の創出	関係人口の拡大 市民参加の拡充	森林資源のデータ整備 ～潜在価値の具現化～	長期軸の資源基盤づくり(ゾーニング等)

SWOT分析 (強み、弱み、機会、脅威)

評価額 1775億円

持続可能性

木霊を守る人づくり【ひと】

短期軸の経済基盤づくり

林業生産力の向上

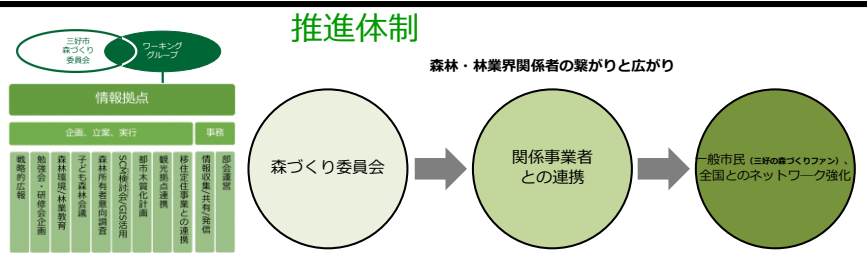
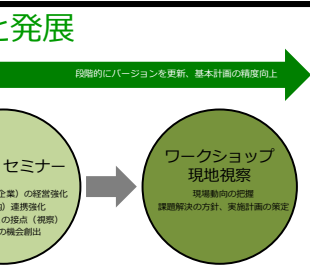
生産現場の連携強化

林業人口[収益性]

市民参画[主体性]

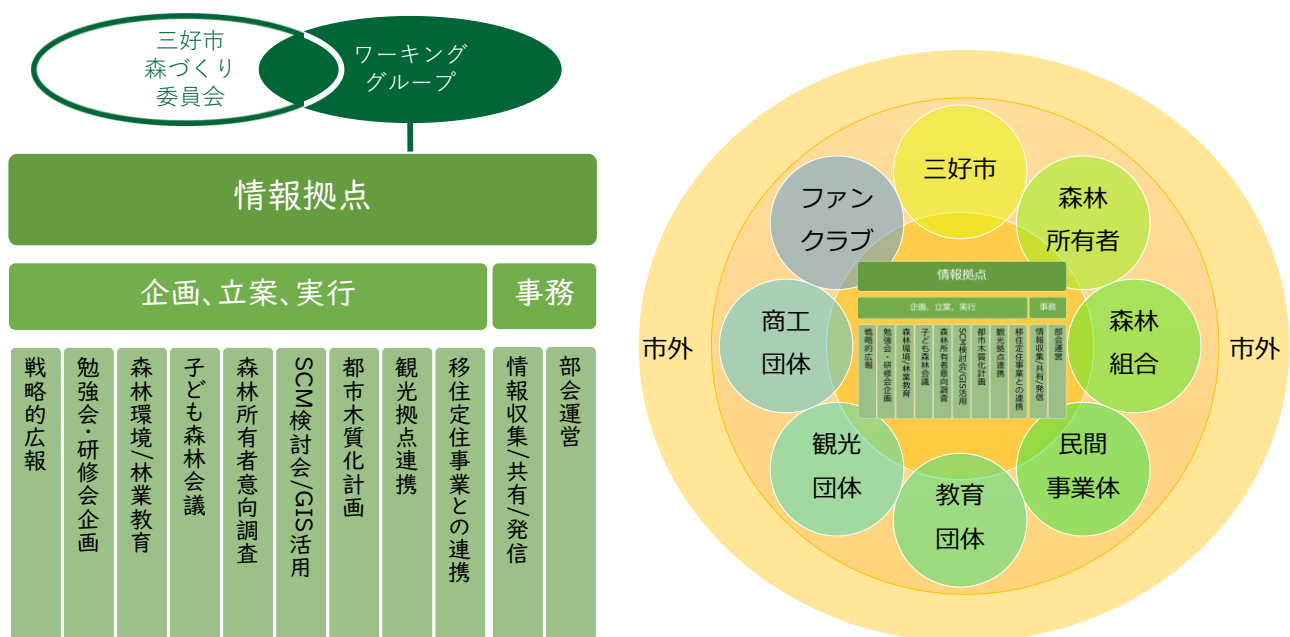
関係人口[多様性]

6. 短期軸の経済基盤づくり
 - ・スマート林業の推進
 - ・林業機械の導入の推進
 - ・林道の整備と拡張
 - ・市内事業者の規模と市産材の市内流通量の把握
7. 林業人口(産業人口)の創出
 - ・県立高校への森林学習導入
 - ・三好市版林業アカデミーの実施
 - ・県内シェアNo1を継続する経営力向上
 - ・IT人材、他企業の参入斡旋
8. 市民参画の拡充
 - ・三好の森ファンクラブの実現
 - ・子ども森林会議の開催
 - ・森林ボランティア人材の育成
 - ・市民の健康/福祉の増進
9. 関係(交流)人口の拡大
 - ・移住定住促進事業との連携
 - ・木育イベントの開催と交流
 - ・企業及び団体との連携



⑦推進体制

本計画策定の検討を中心に行った三好市森づくり委員会は今後も組織継続します。現在の三好市森づくり委員会は三好市内外の森林・林業に係る有識者及び事業者等が参加していますが、今後、本計画を推進していくにあたり、事業の現場や市民の声を拾い上げ、関係者の連携強化と参画者の輪を広げていく必要があります。そのため、三好市森づくり委員に加え、関係事業者（素材生産業者や製材業者、工務店や観光業等の異業種事業者）や一般市民をメンバーにしたワーキンググループ（実行組織）づくりを検討します。ワーキンググループでは「情報拠点」の整備、各種「企画、立案、実行」、「事務」の役割を分担し、特に「企画、立案、実行」については、企画ごとに部会を設けるなど、本計画の推進体制づくりを進めます。



(推進体制と部会例)

三好市森づくり基本計画

“三好市「千年のかくれんぼ」の森構想”～もり・まち・ひとの関係性の再構築～

2020年4月-2029年3月 Ver.1 【概要版】

発行：2020年3月

作成：三好市

編集：三好市役所産業観光部林業振興課

〒778-0002 徳島県三好市池田町マチ 2145 番地 1

電話:0883-72-7618 / FAX:0883-72-7690